|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **学校経営推進費　評価報告書（１年め）** | | | | |
| **１．事業計画の概要** | |  |  |  |
| **学校名** | YMCA学院高等学校 | | | |
| **取り組む課題** | 生徒の自立を支える教育の充実 | | | |
| **評価指標** | * 健康に不安をもつ生徒へのヘルスケアを通した中途退学率の減少 | | | |
| **計画名** | 『誰もが学びをあきらめない』  ～Spirit（精神）・Mind（知性）・Body（身体）を育むヘルスケアの実践～ | | | |
| **２．事業目標及び本年度の取組み** | |  |  |  |
| **学校経営計画の**  **中期的目標** | ２　生徒理解を深め、生徒一人ひとりに添った生徒支援を実現する。  （2） 専門家や外部との連携を積極的に行う。  ３　確実な進路補償の仕組みを作る。  （1） 学び直しができる仕組みを整え、進路に向き合う力を育成する。  ４　開かれた学校づくりをし、生徒が活躍できる場を増やす。  （2） 生徒が主体的に関わるスクーリングや特別活動を実施する。またボランティアや生徒間交流の機会を提供する。  ５　持続可能な学校とするための体制を確立させる。  （1） 社会の大きな変革の中で、新しい学校の形を探究し、社会に貢献できる学校をめざす。 | | | |
| **事業目標** | 『誰もが学びをあきらめないためのヘルスケアの実践』に向けた取組み目標   * こころのケア（Spiritの涵養）：自分の在り方をみつめ、他者と関わる力をつける体験学習を中心としたスクーリングを実施し、人格形成や自己効力感の向上をめざします。 * 学びのケア（Mindの涵養）：レポートサポートをより充実させ、YMCA学院高校のオリジナルメディア利用学習課題を新たに作成し、遠隔授業を実施、通学が困難な生徒を含めた、誰もが学びを継続できる取組みを行います。 * からだのケア（Bodyの涵養）：定期的な健康講座（オンライン実習含む）の実施や歩数や筋力測定によって、生徒が自分の体調を客観的に把握し、基礎体力をつけます。また生徒が相互に支えあえる関係を構築することによって、実習が継続できるような仕組みをつくります。   上記を踏まえて、具体的な取組み（「わいわいカフェ」・親と子のサポートグループや、医療（関西医科大学）や福祉（公益財団法人大阪YMCA）との連携によるチームでのヘルスケア実践、進路支援等）を実践。その結果学びをあきらめず、未来に希望を抱き、人と人とのつながりを大切する「ひとづくり」を行います。  さらに、生徒自身がボランティア活動を通して「自己効力感」を感じられるようになることをめざします。  また人材育成のプロセスや成果についてHPでの公表や学会発表を通じて社会への還元を果たします。 | | | |
| **整備した**  **設備・物品** | パソコン、プロジェクター、プロジェクター天吊金具、ウレタンマット、折り畳み長机（低床）、液晶ディスプレイ、ビデオカメラ、三脚、ウエラブルデバイス（スマートウォッチ）、統計ソフトSPSS | | | |
| **取組みの**  **主担・実施者** | 主担： 生徒支援部会（教頭、主任、カウンセラー（臨床心理士）・特別支援教育コーディネーター、養護教諭、教員、アドバイザー）  取組みの実施者： 全教員  連携者： 公益財団法人大阪YMCA・関西医科大学小児科学講座・大阪総合教育支援研究所 | | | |
| **本年度の**  **取組内容** | 【前年度からの取組み】   * 教員(担任）生徒支援会議（４月～８月・10月～２月） * 関西医科大学医師によるヘルスケアに関する講演会の実施（３月） * サポートグループ的グループワークの実施（健康に不安を持つ生徒・保護者のつどい）（５月） * 自然の中のハイキングとワークを組み込んだ「五感で自然を感じよう」スクーリングの実施（10・11月）   【新たな取組み】   * 連携機関（関西医科大学小児科学講座・公益財団法人大阪YMCA）とケース会議の実施（４月以降　定期的に実施） * 月平均の歩数測定の開始（10月以降毎月） * ウエラブルデバイス(スマートウォッチ)使用開始（10月）。健康講座によるストレス減少を確認し動機づけとした。 * 健康講座（オンライン実習）（前期：15回　後期：15回　実施）※昨年度10回。内容を充実させた。 * ピンクシャツデーラン（２月）・チャリティーラン（３月）（リアル活動） * 生徒・保護者の満足度アンケート実施（９月・３月）SMB　・下肢筋力測定（９月・３月） * 歩数分析結果の取りまとめ、次年度への課題抽出、次年度のヘルスケア計画策定（２月） * 生徒の自己効力感のアンケート調査・データ分析（８月・３月）※ベースラインの測定   ＜通年＞   * 生徒の関係・居場所づくり「わいわいカフェ」の開催　※夕方開催 * 希望者にスタディサプリを導入し、教員と生徒間の指導を実施 * カウンセリング　・教育相談 * 大阪総合教育支援研究所との連携した教員養成を実施・臨床心理士による教員向け傾聴トレーニングを実施 * HPに実践事例発信 * 15時開始の学びなおし講座・レポートサポートを実施 * 進学に向けた自学自習の場「進学サポート」（英・国）　※夕方開催 | | | |
| **成果の検証方法**  **と評価指標** | 1. 単位修得率（修得単位数÷登録単位数）89％以上（R２年度後期87.7％） 2. 中途退学率（年度退学転出者÷（年度末在籍者+年度退学転出者+前期卒業者））（R１・R２年度平均4.67％）4.5％以下（M） 3. 下肢筋力測定（CS-30）の目標を28回に設定。各個人の初回測定から５％増。 4. 歩数測定で8000歩を目標値とし、初回測定の５％増。（B） 5. 「わいわいカフェ」の利用者数、各回平均５人以上。（S） | | | |
| **自己評価** | 1. 単位修得率（単位修得人数÷単位登録者数）目標値：89％以上（R２年度後期87.7％）結果：89.4％ （○）   （※元データは同じですが、表記を単位数→人数に変更しています。）   1. 中途退学率（年度退学転出者 ÷（年度末在籍者＋年度退学転出者＋前期卒業者））（R１・R２年度平均4.67％）4.5％以下。結果：1.5％ （○） 2. 下肢筋力測定（CS-30）の目標を28回に設定。各個人の初回測定の105％。結果：137％（AV19回）＊測定慣れによるものも考えられる （○） 3. 歩数測定で8000歩を目標値とし、初回測定の105％増。結果：121％（AV4,776歩） （○） 4. 「わいわいカフェ」の利用者数、各回平均５人以上。結果：4.3名 （△） | | | |
| **次年度に向けて** | 【新たな取組み】   * オリジナルメディア学習課題の作成・実施（５月～８月・10月～12月） * 健康講座で生徒同士が互いの取組みを継続し、関係性を深めるためピアサポートアプリの導入・健康講座回数増（６月～８月・12月～２月） * コミュニケーション系講座を中心とする体験学習（総合科目）実施（８月・２月） * ヘルスケアが必要な生徒を中心に据えた体育実技の実施（８月・１月） * 希望者にスタディサプリを導入し、学習促進を促す個別面談を実施 * 研修を受けた担任による傾聴を通した面談の実施（希望者、毎月） * NPO法人D×P「クレッシェンド」と連携しグループワークを実施（自己理解・進路支援）（12月） | | | |

**３．事業費報告**

